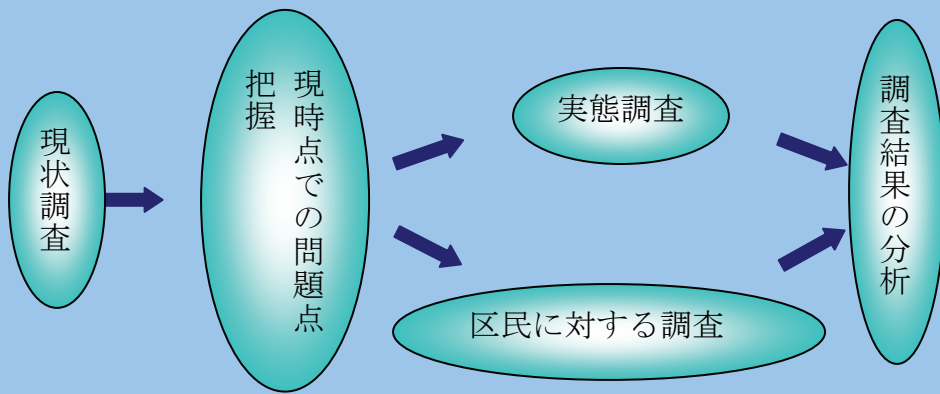


1. はじめに

文部科学省地震調査研究本部によると、首都直下型地震が起こる確率は30年以内で70%といわれている。大きな地震がいつ起きてもおかしくない状況である以上、減災のためにも市民の防災力の向上がこれまで以上に期待される。そこで、本研究では市民の防災力向上の成果を得るのに有効な自主防災組織の活動実態を明らかにし、訓練内容の分析を行う。さらに自主防災組織に対する提案を含んだ、自主防災組織の活性化や防災力向上に向けた様々な活動への市民の参加につながる要素の抽出を行う。

2. 研究の方法



①現状調査 既往研究や、内閣府などで行われている世論調査より、現時点でわかっている問題点を把握する。

②実態調査 練馬区の自主防災組織である「防災住民組織」の活動実態を実際に活動に参加しながら調査する。

③練馬区民に対する調査

- 1) 自主防災活動に参加した人を対象にアンケート・ヒアリングを行い、参加者の自主防災組織や訓練に対する意識を調査した。
- 2) 自主防災組織に属している人を対象にアンケートを行い、組織が抱えている問題や活動に対する意識を調査した。

④調査結果の分析 実態調査や、区民に対する調査の結果を分析し、問題点の改善、活動の向上につながる要素を抽出する。

3. 市民の防災意識の現状

内閣府や東京都が実施した世論調査結果から、一般市民の防災意識はまだ十分とはいえないことがわかった。特に若い世代(20代)の防災意識がもっとも低い。また防災対策に関しては、訓練を重要視していない傾向にある。そのため、「訓練に参加したことがない」、「訓練が行われていることを知らない」といった回答が多かった。

参加しない理由では「具体的な日時がわからない」という回答が見られ、一般市民に対する広報にも注目する必要がある。

地域の防災活動については、「そのような活動を行う組織が居住地域にあるかわからない」と回答した人が多く、活動に参加したことがある人も少ない。これらも全体的に参加したことがない人が多い傾向にあるが、若い世代では特にそれが顕著となっている。

4. 自主防災組織について

自主防災組織とは・・・

「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域住民の連携意識によって結成された組織で、主に自治会や町内会単位で結成される。発災直後の人命救助や初期消火は近隣住民に負うところが大いいため、自主防災組織は、地域住民の自主的な防災活動が効果的に進めるよう積極的な活動が望まれている。

練馬区の自主防災組織について・・・

練馬区では自主防災組織のことを「防災住民組織」という。この防災住民組織は大きく3つに分けられ、町会単位の組織である「防災会」、初期消火を目的として作られた「市民消防隊」、区内全ての小中学校に設置された「避難拠点運営連絡会」に分けられる。(図1)

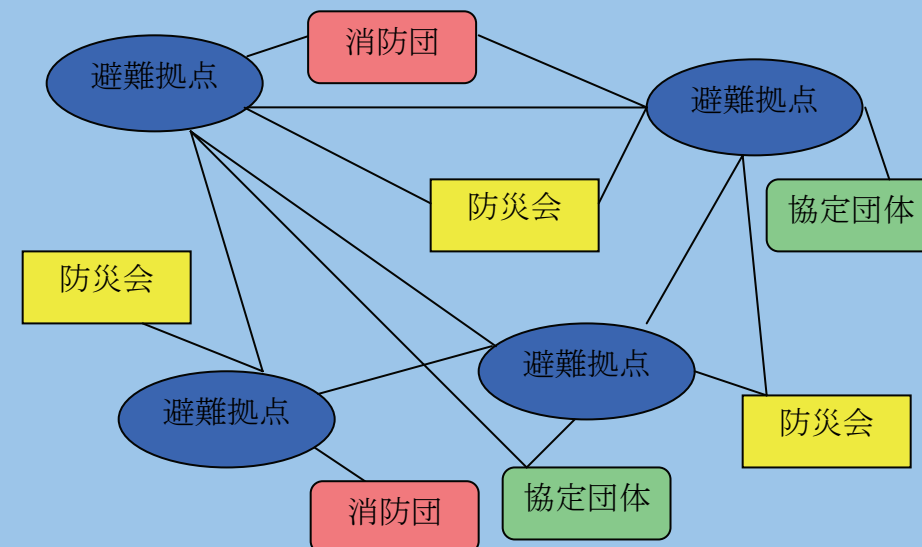


図 1

地域での結びつき

5. 訓練の実態調査

練馬区で行われている訓練を把握するため、実際に訓練に参加した。一回の訓練に何種類かの内容が行われていた。訓練は主に

表1のように休日や土曜日の午前中に行われていることが多い。よく行われていた訓練、参加者の反応がよかった訓練(写真1)



消火訓練

(光が丘六小避難拠点訓練より)



起震車体験

(関町北小学校訓練より)



応急救護訓練

(上石神井北小避難拠点訓練より)



炊き出し訓練

(早宮小避難拠点訓練より)

写真1 訓練の様子

6. 訓練評価

調査結果から訓練内容の評価を行った。表2は訓練内容を組織以外に協力が必要な訓練を団体ごとに色分けしたものである。なお、水色部分が実態調査と参加者を対象としたアンケート、ヒアリング調査から評価を判断したもので、白い部分は実態調査から判断した。

これをみると自主防災組織以外の団体の協力が必要な訓練内容により評価が集まっていることがわかる。組織のみが行う訓練で評価がよいものは「備蓄資器材の操作」のみである。よって自主防災組織だけで行える訓練内容でも、参加者からの評価が得られる工夫をしていくことが、活動を活性化する要因の一つになると考える。

- 受付訓練…避難者を避難場所に受け入れる訓練
- 備蓄資器材の運搬設置、操作…発電機や濾過器、バーナーの使い方とその体験
- 宿泊訓練…避難所となる学校の体育館に宿泊体験する訓練
- ポンプ実演…防災会が所持する軽可搬ポンプの放水の様子観察
- 防災カルタ…防災に因んだカルタ。カルタの裏には防災知識などがわかりやすく書いてある
- 通報訓練…119番の仕方。消防に何を伝えるのかを練習する
- 人形劇・紙芝居…ボランティア団体による防災に因んだ話を行う。主に、小学生に行われる。

表1 参加した訓練

	実施日	訓練時間	訓練開始時間
早宮小	7月30日(土)	15.5時間	午後5時
光六小	9月10日(土)	16.0時間	午後4時
大泉北小	9月16日(金)	14.5時間	午後5時30分
開進三中	10月1日(土)	4.5時間	午前9時
旭町小	10月24日(月)	2.0時間	午後1時50分
関町北小	10月29日(土)	4.0時間	午前8時30分
上石神井北小	11月6日(日)	4.0時間	午前8時30分
田柄中	11月20日(日)	3.5時間	午前8時30分
南町小	11月23日(水)	2.5時間	午前10時20分

表2 訓練内容の評価

	受付訓練	備蓄資機材の運搬、設置	備蓄資機材の操作	仮設トイレ組み立て	防災備蓄庫の説明	炊き出し訓練	配給訓練	バケツリレー	サラダ油灯製作	中学生の吹奏楽による演奏	意見交換会	警備訓練	宿泊訓練	寝具の配給	ポンプ実演	防災課			消防署					心のあかその他					
																震災ビデオ	防災カルタ	起震車	救護訓練	ロープ取り扱い訓練	はしご車	通報訓練	煙体験ハウス	消火訓練	人形劇	紙芝居	防災に関する講演	救助犬デモ	手話
ためになった度合い	×	—	○	○	○	×	×	×	△	×	△	—	△	△	×	△	△	○	○	△	×	○	△	△	△	—	—	—	—
きっかけになる度合い	×	×	×	×	×	△	△	△	×	△	×	—	△	×	△	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	—	—	—	—
継続参加につながる度合い	×	—	○	○	×	×	×	△	×	△	△	—	△	×	△	△	△	△	△	×	△	△	△	△	△	—	—	—	—
意識・知識の向上度合い	×	—	○	△	○	×	×	×	×	×	△	—	△	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	—
楽しい内容	大人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	子供	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	○	○	○	○	—	—	—	—
あれば参加したいと思うもの	×	×	△	—	—	△	—	—	—	—	—	—	×	—	—	△	—	○	—	—	—	×	○	—	—	△	—	—	—
組織から見た反応の良い訓練	×	×	△	—	—	○	—	×	—	—	—	—	×	—	△	△	—	△	○	—	×	—	△	○	—	—	—	—	—
組織から見た参加者が増加した訓練	×	×	×	—	—	△	—	×	—	—	—	—	×	—	×	×	—	△	△	—	×	—	△	△	—	—	×	—	—
適性	大人向け	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○
	子供向け	△	×	△	△	×	○	○	○	○	×	×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
人気度合い	×	—	△	×	×	—	×	△	×	△	—	—	△	×	○	○	×	○	○	×	○	△	△	×	○	○	○	○	○
運営上のやりやすさ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一回に体験できる人数(人)	—	—	50	30	30	—	—	150	—	—	—	—	100	—	—	—	—	50	30	30	15	30	50	50	—	—	—	—	
一回にかかる時間(分)	—	—	30	30	15	—	—	25	—	—	—	—	600	—	20	—	—	30	30	30	30	30	30	30	30	—	—	—	—

7. 区民に対する意識調査

練馬区の防災住民組織が行う活動に参加した一般住民を対象に、アンケート・ヒアリング調査を行った。住民に対する広報や、参加に関する意識に関する結果や分析の一部を以下に示す。

① 訓練参加のきっかけ・理由



- ・ 子供に体験させておきたかったので。
- ・ 学校での訓練ということで、子供たちも行ききたかったので

- ・ 最近、地震が多い。関東地区の地震の話が多い。
- ・ 何時地震が来るかわかりませんので。



- ・ 自治会の当番だったから
- ・ 回覧が回ってきたので。また、知人が役員をやっている。



家族が参加に引き込む要因になっていることが多い。そのほか、大地震に危機感をもっていること、組織や団体に所属していることによる参加があることがわかった。

② 訓練があることを知った方法

小学生の子供を持つ親は学校からのプリントで知ったということがわかった。また、年配の人は回覧板で知ることが多い。

- ・ 学校からのプリント
- ・ 回覧板



③ 訓練に参加してみた感想(参加者の反応)



- ・ 良かったです。救急措置等わかりやすかったです。
- ・ 初めての参加だったので、いろいろ教えていただいて勉強になった。

- ・ 忘れないように今後もなるべく参加したいと思う。
- ・ 知識として知らなかった事がいくつかわかったが、せっかく来たのだから体験的なものを多くしてもらいたいと考える。



- ・ 実際やっているが、本番で出来るかが不安。
- ・ 役立てられるといい。
- ・ 継続して体験しないと忘れてしまう

大抵の人が参加してよかったとしている。体験することで、防災意識の向上が見られる。また、体験することで、さらに不安や危機感が高まる人もみられた。

④ 今後の参加意欲



- ・ 体験ものには参加したい。
- ・ 時間があれば参加したい。
- ・ 忘れないように何回も体験したい。

今後の参加意欲に関する結果を図2に示す。内容によって参加すると回答した人が多く、ヒアリングでは体験型の訓練に参加したいとの意見があった。

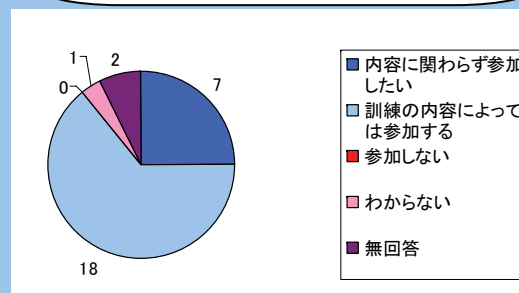


図2 今後の訓練に対する参加意欲

次に練馬区の防災住民組織に属している人を対象にアンケート調査を行った。その結果、分析の一部を以下に示す。

① 組織が抱えている問題

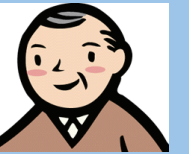
- ・ 一般の方の参加がなかなか集まらない。
- ・ 住民の理解力がひくい。(助け合いの精神が低い)



活動に一般の参加者が集まらない、活動に対する住民の理解が得られにくいことなどがわかった。

② 組織の存在や活動を住民に知ってもらうために行っていること

- ・ 回覧板を回したり、掲示したりしています。またバザーなども同時に行って興味を持ってもらうようにします。
- ・ 回覧。子供を集めて「年末夜警」の催しをするなど。



ほとんどの組織が

「回覧版」「掲示板」と回答したが、中には訓練活動と同時にほかの催し物を行う場合や、訓練に限らず定期的に活動を行って住民に存在を示す組織もあった。

最後に訓練に参加したことがなく、防災の意識が低いといわれている20代を対象にアンケート調査を行った。以下にその結果と分析の一部を示す。

① 訓練に対する意見



- ・ 必要だと思う。訓練では数名しか体験できないから、もっと多くの人が体験できるようにしてほしい。
- ・ 必要だが、どのような人に参加してほしいかによって、内容や広報の仕方を変える必要があると感じる。今は積極的に参加しようとは思わない。

訓練は必要だと感じつつ、訓練に対する不満を感じている。

② 20代が防災訓練に参加していない現状について

- ・ 地域で防災訓練が行われてる事自体、知らない人が多いと思う。訓練を地域が行っているという事をもっと大々的に広報すべき。また、現代の若者はライフスタイルが様々であるので曜日や開始時間等を変えて何回かに分けて行うのも有効かと思う。



広報を行うべきと回答した人が多かった。また、多様なライフスタイルに訓練実施日を合わせるべきとの意見もあった。

③ 地域の防災力の力になる自覚について



- ・ 災害が起きたときに敏速に動けるのはやはり若い人だと思う。力もあり、頭の回転が速い若い人が周りにつくのはあたりまえの事では。
- ・ 防災力に関しては若い人というよりも正しい知識を身につけた人が力になると思う。若くても知識が無ければ自主的に動いて力になるというのは難しいと思う。

地域の防災力となるのは若い人に限らず、防災知識のある人だという認識の人もいた。

8. まとめ

一般住民には防災訓練活動はまだ身近な存在ではなく、訓練の参加経験のない住民も多い。しかし大地震の際には市民の自主防災による活動が重要となるため、住民の防災意識を高める事が必要である。練馬区を対象に防災活動に参加し、ヒアリング等の結果、問題点の抽出や訓練内容の評価を行った。組織は一般住民へ訓練の重要性だけでなく魅力を伝え、訓練参加者をひきつける工夫をすることが必要である。特に参加者は体験型の訓練を必要と感じているため、訓練内容のバランスを考えて、訓練計画を行うことが参加者向上につながると考えられる。